

# 効果的なアクティブ・ラーニングを実践するための基礎力を育む 就学前教育の体系化—附属幼稚園の実践分析と教諭へのインタビューを通して—

池田泰子\*, 下山恵・千葉紅子・渡邊奈穂子・高橋文子・

北條早織・小野章江・川村真紀\*\*, 菊池明子\*\*\*

\*岩手大学教育学部, \*\*岩手大学教育学部附属幼稚園, \*\*\*岩手大学教育学部附属特別支援学校

(平成30年3月2日受理)

## 1. はじめに

文部科学省は学習指導要領の等改訂案を公表し、幼稚園は平成30年度、小学校は32年度、中学校は33年度から全面実施される予定である<sup>1)</sup>。今回の改訂では、一方的に知識を得るだけでなく「主体的・対話的で深い学び」いわゆるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善をさらに充実させることを掲げている。文部科学省はアクティブラーニングを「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」と定義しており<sup>2)</sup>、能動的に学習するための方法として体験学習からグループディスカッションなど多く手法を挙げている。その手法の多くは、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなど他者との対話を通して学ぶ手法である。しかし、対話的な学びの場を設定されても、その場を活用するための子ども自身の準備が整っていないと充実した学びの実現は困難であることが予想される。アクティブラーニングに関する書籍<sup>3)4)5)6)</sup>には、「意義」「方法」「評価法」などについては記載されているが、アクティブラーニングを実践するために必要な子どもの基礎力についての記載は見当たらない。そこで、本研究では、アクティブ・ラーニングの中の対話的な学びに焦点を当て、岩手大学教育学部附属幼稚園

の教育参観と教諭を対象とした質問紙調査を通して、対話的学びの場において充実した学びを実現するために幼児期に育むべき基礎力を明らかにすることを目的とする。

## 2. 方法

本研究は2種類の手法を用いた。

1つ目は、筆者と特別支援学校教諭が幼稚園の教育実践を観察することを通して、有効的なアクティブ・ラーニングを実践に関連していると考えられる場面などを情報収集した。場面によって、ビデオ撮影を行なった。

2つ目は、幼稚園教諭6名を対象にコミュニケーション力に関する質問紙調査を平成29年7月頭に実施した。A3用紙1枚、コミュニケーション力を育てるために日頃意識していること、大切にしていることについて「ねらい」と「具体的指導方法」に分けて記載するよう指示した。

## 3. 結果と考察

(1) 教育実践の観察を通して得られた情報

1) 友達との意見交換を楽しむ場面

本場面は、子どもたちは4~5名のグループごとに机に座っており、先生から「お当番を決めてください」という指示のあった年長クラスで観察された。先生の指示後、5分13秒後に撮影を開始した1グループ(4名:A児・B児・C児・D児)のやりとりの3分30秒のやりとりを記録に起こした(表1)。お当番を決める方法について、「身長が高い人」「遠くで生まれた人」「早口言葉を言えた人」など楽しみながら11個のアイディアを出し合った。大

人は効率的に結論にたどり着くことが良いグループワークと考えてしまいがちであるが、幼児期においては、意見を出し合うことを楽しむということが重要な段階となることが考えられた。

表1 お当番を決めるための4名年長のやりとり

経過時間	発言した児童	発言内容	
0:13	A児	じゃあ、名前が一番多い人にしよう(①)。そうすると〇〇くんになっちゃうよね。じゃあそれはやめとこう	
	C児	じゃあこれは？	
0:24	B児	あ、そっか。苗字じゃなくて自分の名前が一番長い人にしよう(②)。そうすると〇〇君多くなっちゃうか	
0:36	A児	じゃあさ、みんな新しい名前付けない？(③)	
	D児	ニックネーム	
0:48	C児	じゃあ良い事があるよ。	
	A児	〇〇君は何で名前にする？	
	C児	じゃあさ、5秒目をつぶっていて。1、2、3、4、5、どっちにごみが入っている？(④)	
	A児	どっちにも入ってない。	
	B児	はい！(手を開かせせる)	
	A児	やっぱりそっちだと思った	
	B児	入ってた。	
1:20	A児	じゃあ僕入ってくる	
	B児	なんで？	
	A児	だって(右を指差して)こっちってやったじゃん	
	B児	え、やってないよ。〇〇君はこっちだと思って開いたんだよね？	
	C児	うん	
	先生	どうやって決めることにしたの？	
	B児	<u>袖様の言うとおり(⑤)で決めようとしたら僕だったし、じゃんけん(⑥)だと〇〇君だったし</u>	
1:51	A児	良い考えがある！誰が一番身長が高いか(⑦)。そうすると〇〇君だからやめよう。	
	C児	じゃあ一番小さい人(⑧)だと〇〇(自分)になっちゃうもんね	
2:07	A児	じゃあさ、遠くで生まれた人にしらない？(⑨)〇〇君何県で生まれた？	
	D児	東京	
	B児	そう	
	A児	ぼく会津若松。でも会津若松で生まれて東京に一回行った。	
	C児	〇〇君は？	
	D児	俺は、二戸	
	B児	二戸ってどこ？	
	A児	あの短角牛があるところだよ。僕知ってる。	
	B児	〇〇君は？	
	C児	俺は高知で生まれた	
2:38	B児	高知ってどこよ	
	D児	高知は四国地方の、えっと、こういうやつ(体で形を表す)。	
2:58		2:58	
	A児	僕が会津若松だから。	
	B児	ちよっと待って	
	3:08	C児	じゃあさ、早口言葉を言えた人にしたら？(⑩)
		B児	あ、いいね
	A児	じゃあ何を言う？	
	B児	じゃあ、 <u>うんこが早く言えた人ね(⑪)！</u> いっせーの一で、うんこ	
	A児	僕だ	
	B児	〇〇君違うよ	
	3:30	B児	じゃあもう一回じゃんけん(⑥)で決めよう。(A児が勝つ)

※下線はビデオ撮影中に挙げられたアイディア、二重下線は撮影前に挙げられたであろうアイディア

## 2) 失敗場面と困っている場面

本場面は年中クラスで観察された1名女兒と教諭のやりとりである。子どもは45枚のピンク色のビニール袋を使って、ドレスを作成していた。試着をすることになり、教諭がドレスを子どもに着せるお手伝いをしていた。着せる段階で教諭はさかさまであると思っていたが、指摘せずにお手伝いを続けた。その後、子どもは「あれ？ピラピラが上にある」とさかさまに着てしまったこと、また、ドレスを試着してみると、首周りを絞っていないのでドレスが肩に引っかからず設計図通りになっていないことに気がついた。試着のお手伝いしていた教諭は「こうしたら？」とすぐに助言せず「どうしようかね」と一緒に考える声かけをして、子どもが自ら考える機会を作ったが、子どもはしばらく考えていたが、アイディアが浮かばなかった様子であったため、教諭はテープで止めることを提案した。子どもは大人の提案を聞いて、輪ゴムで止めるというアイディアを思いつき、両肩を輪ゴムでしばり、ドレスを完成させた。完成したドレスを試着した時はとても満足そうな笑顔を見せていた。

子どもは大人と比べると時間はかかるが、「視覚」「触覚」などの感覚器官から得られる情報を用いて、頭をフル回転させて考えている。時間がかかることをマイナスと判断し、大人が「こうすればいい」と助言をすれば、失敗体験はせずに、効率的に、完成度の高いものを作ることができるが、その助言は親切なように見えて子どもが「気がつく」「考える」場面を奪ってしまう可能性もある。大人は、子どもの失敗に気がついていても見守ることによって、子どもの創造力が促され、より深い達成感を味わうことにつながる。大人は何もしてはいけないということではなく子ども活動を見て、必要なときに子どもの意向を汲み取りつつ守って(助けて)あげることで、子ども創造力を促すことにつながる事が考えられた。

### (2) 幼稚園教諭の回答から得られた情報

幼稚園教諭6名に質問紙調査を依頼したところ、6名から回答が得られた(回収率100%)。

ねらいについては、36件の記載があった。「人とかかわる楽しさを感じる」「豊かに自分を表現する（言葉だけではなく様々形で）」「人に対する安心感を持つ」「友達とかかわる楽しさを感じる」

「他者の話を興味を持って聞く」「自分の気持ちを自分で話せるようになる」「友達の話聞いて、自分の考え（感じたこと）も伝える」「自分より年下の子に合わせて話をする」「グループで相談する」自分の考えを言う場を意識して作る」「大人の話聴く」「自分から好きな遊びをみつけて繰り返し楽しむ」「クラスの皆で取り組む活動や目的に向かう活動を行なう」などが多数のねらいが挙げられた。このことからコミュニケーション力を育む視点は、多面的であることが考えられた。また、コミュニケーションと聞くと「聴く」「表現」に注目しがちであるが、その前提として「安心感」「楽しさ」を実感することが基盤になっていることが明らかになった。

具体的指導については、72件の記載があった。記載された内容を【安心できる場と実感できる環境づくり】【話したいと思う環境づくり】【話を聴いてみようと思う環境づくり】【お互いの価値観を認め合える場の設定】の4つの視点でまとめた。

#### 【安心できる場と実感できる環境づくり】

- ・スキンシップの取りやすい関係を作る
- ・子どものあるがままの姿を受け止める
- ・子どものペースでゆっくり生活する
- ・生活の流れを大きく変えずに繰り返す
- ・大人も一緒に子どもの見立ての世界を楽しむ
- ・挨拶、他愛もないやりとりをするなど、人とのコミュニケーションをする楽しさを実感してもらう
- ・大人自身がやりとりを楽しむ

#### 【話したいと思う環境づくり】

- ・子どもが言いたいことを感じ取って受け答えするように心掛ける
- ・引っ込み思案の子どもにはたくさん話しかけ、さりげないスキンシップをはかり、話したりか

かわったりする楽しさを感じられるようにする

- ・聴いているということが伝わるために、あいづちを打つ

- ・素直なつぶやきを大事にする
- ・興味があることを話題にする
- ・答えやすい質問に替える（二択など）
- ・ゆったりとした雰囲気ですしかける
- ・最後まで聴く
- ・否定せずに共感的に楽しそうに聴く
- ・話し終わった後に、共感しながら「こういうことだね」とわかりやすい言い方の見本を示す
- ・相手に自分で伝えられるよう整理する役割
- ・話し方の例を示す
- ・対大人のやりとりから、子ども同士の気持ちがつながっていくよう子ども達が発していることばを周りの子ども達へ広げていく

#### 【話を聴いてみようと思う環境づくり】

- ・ことばだけではなく具体物を提示する
- ・声の高低（イントネーション）をつけて話す
- ・関心がこちらに向くような遊び、歌などをしてから始める
- ・興味を持つ人形、絵、BGMなどを使って話す
- ・わざと言い間違いをして「ちがうよ～」などの反応を楽しみながらよく聴くよう促す
- ・大きな声ばかりではなく小声で話すことにより聴こうとする姿勢を身につける
- ・場面に合わせた声の高低（イントネーション）・大小、表情、しぐさを用いる
- ・子どもの発達年齢に合わせた語彙の使用、文の長さで話す
- ・友達の話聴く場面を作る

#### 【お互いの価値観を認め合える場の設定】

- ・皆で行なうと楽しいことを実感する
- ・一人一人のよさを発揮する場
- ・友達とのつながりを感じる場
- ・お互いのよさを感じる場
- ・クラス皆で取り組む場
- ・目的に向かう活動

大人同士が楽しいコミュニケーションの見本を示す、大人との信頼関係の形成は安心感につながり、それが友達同士のコミュニケーションへと広がっていくなど、大人の多くの配慮が子どもの豊かなコミュニケーション力の形成につながっていることが明らかとなった。

### (3) 効果的なアクティブ・ラーニングを実践するために必要な基礎力

本研究の実践観察、幼稚園教諭を対象としたアンケート、研究メンバーとの意見交換を通して、対話的な学びの場で効果的な学びを得るための基盤として考えられた基礎力を表2にまとめた。

表2 効果的なアクティブ・ラーニングを実践するために必要な基礎力

安心感	生活する上で過度な恐怖、緊張がない 衣食住に心配なことがない
考える力	遊びを発展させる力(何を作ろう、どうやって遊ぼうなど) 相手の立場で考える力(どのような気持ち、何を言いたいのかななど)
集中する力	聴く、考える場面において集中を持続する力
調整力	どうしたら活発に意見交換ができるか、どのような役割を演じたらうまくいかなかなど(場面調整力) 内言を通して自分の欲求を調整する力(大きな声を出してはダメなど)
他者に伝わる体験がある	伝えたい体験がある ほめてもらえない、認めてもらいたいという欲求 伝える相手がいる
伝える力(表現力)	躊躇無く感情を表出して受け止められる体験 躊躇無く意志を表出して受け止められる体験 わかりやすく話すための日々のエクササイズの有無 発達レベルに合う話し方の良い見本を示す大人の存在
理解力	世の中にはたくさんのごとばがあることへの気づき 最後まで人の言っていることを聞き取る姿勢 語彙力 わからないことばの意味を推測する力
知らないことを知りたいと思う気持ち(好奇心)	もっと詳しく知りたい もっと話を聞きたい 興味を持って聴くことによりふむふむやうなづきなどが表出し、聴き上手に 面白いなどと心を動かされる体験 自分とは違う考え方を受け入れる 自分とは違う考え方を面白いと思う
感受性	共感できる 感情移入 相手の気持ちを想像する力
人への興味	どんな人なんだらうの興味を持つ 友達になりたいと思う 話してみたいと思う
コミュニケーションする相手の存在	安心感のなかで思いを受け止めてくれる他者の存在 ※大人 対等な関係におけるやりとり 同級生 先輩、後輩関係におけるやりとり

## 4. 総合考察

本研究から効果的なアクティブ・ラーニングを実践するためには多くの要因が影響していることが明らかとなり、今回は、基礎力を育む就学前教育の体系化には及ばず、関係しているであろうエピソードと基礎力を挙げることに留まった。教育実践の観察を通して、効率的ではないが友達と意見交換する

ことを楽しむ段階があることが明らかになったことから、友達との意見交換を楽しむ前提として、①アイデアが浮かぶこと、②人前で話すことに緊張しないこと、③人と違う意見であることが素晴らしいという価値観を持っていることに焦点を当て、本研究の観察情報や幼稚園教諭から得られた情報を基に現在、保護者や幼児教育に携わる人を対象としたかわり方のワンポイントが記載されたリーフレットを作成中である(図1)。

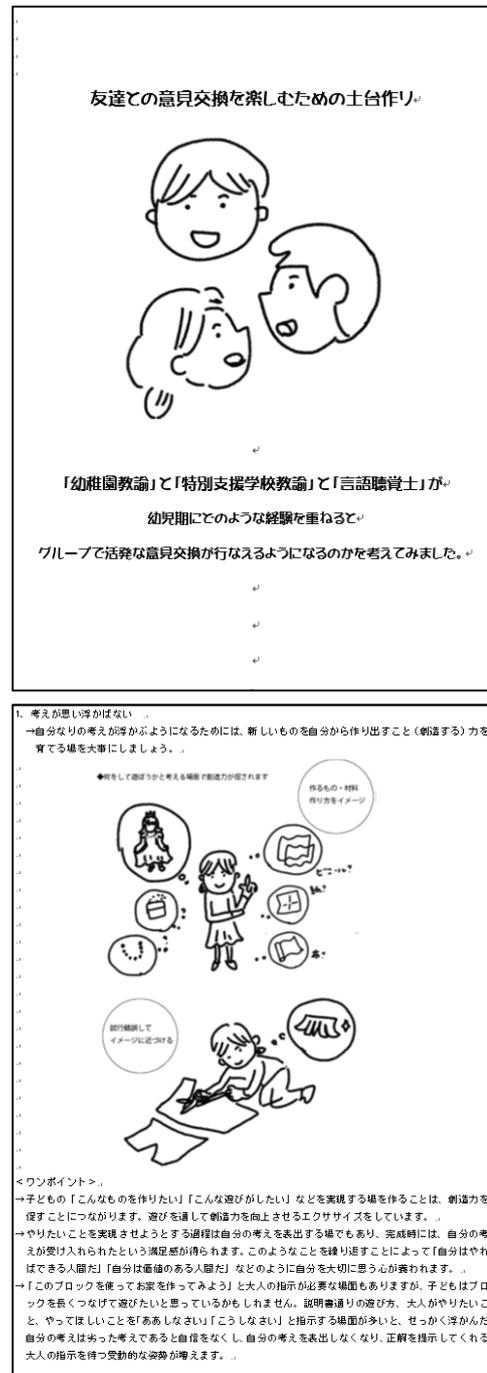


図1 作成中のリーフレット

「友達との意見交換を楽しむための幼児期の土台作り(仮)」

## 引用文献

- 1) 文部科学省 (2017) ; 新学習指導要領平成29年3月公示,  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1383986.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm)
- 2) 文部科学省 ; 定義,  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048\\_3.pdf#search=%27%E6%96%87%E9%83%A8%E7%A7%91%E5%AD%A6%E7%9C%81+%E5%AE%9A%E7%BE%A9%27](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf#search=%27%E6%96%87%E9%83%A8%E7%A7%91%E5%AD%A6%E7%9C%81+%E5%AE%9A%E7%BE%A9%27)
- 3) 小林昭文(2017) ; 図解実践！アクティブラーニングができる本,講談社
- 4) 小林昭文(2017) ; 図解アクティブラーニングがよくわかる本,講談社
- 5) 西川純 (2017) ; アクティブラーニングの評価がわかる！,学陽書房
- 6) 上條晴夫 (2016) ; 教科横断的な資質・能力を育てるアクティブラーニング [小学校] 主体的・協働的に学ぶ授業プラン,図書文化